伊丹市立幼児教育センター通信

ときめき ひらめき

Vol 3 （令和３年６月）
発行 伊丹市立幼児教育センター
（072）780－2488
編集 幼児教育センター長 川阪

ある園を訪問した時の５歳児同士の会話です。手に捕まえた大きな虫を持って、「ねえ見て。すごい大きな虫見つけた。なんていう虫かな？」「うわあ、大きい。これは…多分カメムシやで。カメムシって臭いねん。」「ふうん。でもこの虫は臭くないで。カメムシと違うかも？」「似てるけど…もしかしたら臭くないカメムシもいるかもしれない。調べてみよう。」と言って、携帯していたミニ昆虫図鑑をペラペラとめくり始めました。まさに**「好奇心」の瞬間**でした。残念ながらミニ図鑑には詳しく載っておらず、その日は虫の観察だけに終わりました。

幼児教育センターに戻ってから、まさかと思い色々調べてみると、本当に青りんごの香り、バニラの香りなどいい匂いのカメムシが存在する事が判明。すぐに園長先生に「カメムシ図鑑」の掲示をお願いしました。園では、子どもが**自ら気づくようにさりげなく掲示して気づきを待ちました。**見つけた子ども達の反応は言うまでもありません。「なぜ匂いを出すのか？」「色、形、模様が違う！」などとさらに調べはじめ、カメムシ談義に花を咲かせたそうです。まさに**「探求心」の瞬間**です。子ども達の「ときめき　ひらめき」の瞬間は、毎日の遊びの中に溢れています。私たち保育者はその瞬間を大切にして「学びに向かう力」の土台となるように、乳幼児期の教育・保育を支えていきたいです。（参考：今日から始まる自然観察「いいにおいのカメムシがいる?」伊丹市昆虫館　長嶋聖大学芸員より）

★「幼児教育スタートプラン」（幼児教育推進課長　矢田貴美代）

令和3年5月に行われた経済財政諮問会議にて、萩生田文部科学大臣は、「Society5.0 における子どもたちの学び」や、「令和の日本型学校教育の実現に向けた取組」を示し、これらを目指すために、子どもの生活や学びの基盤である幼児教育の重要性について触れ、「幼児教育スタートプラン（仮称）」を示されました。これまで、萩生田大臣は様々な会見で、幼児教育の重要性について語られ、「すべての5歳児に生活・学習の基盤を保障」について強調されています。

このことから私たち、幼児教育関係者は「幼児期に育む10の姿」を頭に浮かべ、子どもは遊びなどの直接体験を通して総合的に学び、身につけていくものと理解されると思いますが、心配なことは、「学習の基盤を保障」という言葉のみが切り取られ、学校教育の先取りとして、文字や算数を教えることに直結しないかということです。

幼児教育・保育施設は様々な理念のもと、日々保育が実践されています。保育計画の中で文字や数を教えることもあろうかと思います。しかしながらそういった活動と両輪で、子どもの興味関心や発達に即した「遊びを通した学び」を忘れてはいけないと改めて思いました。

6月中旬には、文部科学省主催の幼児教育推進体制会議にオンラインで出席しますが、様々な説明を聞き、質問や意見を述べ、得た情報をみなさまにも周知いたします。今後も、「幼児教育スタートプラン（仮称）」には注視していきたいと思います。

【幼児教育スタートプラン（仮称）】

①幼児教育段階からの地域の教育・福祉資源の連携強化　②保育者の確保・資質能力向上
③幼保小の架け橋プログラム　④幼児教育推進体制の整備
⑤命や子育てに関する学校教育・家庭教育　⑥０歳からの発達支援・子育て家庭の支援
⑦データの蓄積・活用に基づく子どもの命、安全、成長の保障

★乳幼児期の新しい生活様式を考える「マスク」について

厚生労働省では、乳幼児のマスクの着用には注意が必要であるとしています。特に 2 歳未満の子どもは、自ら息苦しさや体調不良を訴えることが難しく、自分でマスクを外すことも困難であることから窒息や熱中症のリスクが高まるため、着用が推奨されていません。また、2 歳以上でもマスクを着用する場合は、保護者や周りの大人が子どもの体調等に十分注意したうえでの着用となっています。

しかし、大人は感染から子どもを守るためにマスクを着用しなくてはなりません。そして乳児は、生後 8 か月頃から周りの人の多様な表情を区別し、感情を理解する心を発達させます。また、相手の目や口の動き、表情、音声などから様々な言語を獲得していくとも言われています。このような時期に、マスクを着用して子どもと関わる保育現場では、保育者はどのようなことを心がければ良いでしょうか。

＊マスクを着用していても表情豊かに語りかけることを心がける
＊透明フェイスシールド、透明パーテーションなどを活用して表情をみせる工夫をする
＊ボディランゲージを使って、コミュニケーションをはかる
＊発語を促す場合は、唇の動きを意識してゆっくりと語りかける
＊家庭でも積極的に表情や気持ちを伝えてもらうよう保護者に呼び掛ける

園で泣いてる子どもが一番安心するのは、先生の笑顔だと思います。満面の笑みで「大丈夫だよ」「大好きだよ」と伝えたいですね。上記以外にも、もっとたくさん工夫ができる事があるかもしれません。園内研修や会議などの機会に、チームで工夫できることを出し合ってみてはいかがでしょうか。いいアイディアがあれば是非、幼児教育センターまでお聞かせください。市内の就学前施設全体で共有しましょう。

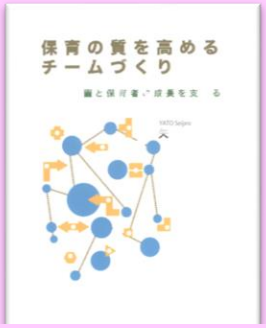
★おススメ保育専門書

「日本版 保育ドキュメンテーションのすすめ」小学館
大豆生田啓友・おおえだけいこ　著

＊今、なぜ保育ドキュメンテーションなのか、ドキュメンテーションの「基本型」「進展型」が記されてます。

「保育の質を高めるチームづくり」わかば社
矢藤誠慈郎　著

＊組織が育ち、保育者が育ち、そして子どもがよりよく育つ。保育の質を高めるための人材育成の一冊です。チームリーダーや管理職におススメ。



「かえるのあまがさ」童心社
与田重一　作

＊七五調の詩が、まるで雨音のように響く、味わい深い一冊です。梅雨期の長雨を見ながら、読み聞かせでも良し。素話でも良し。

★あとがきコラム

最近、多くの園が取り入れている「ドキュメンテーション」ですが、イタリアのレッジョ・エミリア市の保育実践からもたらされた記録様式だそうです。ドキュメンテーションはただの記録ではなく、「子どもの具体的なエピソード」「先生の気づき（読み取り）」等を記録します。レッジョでは月に一度、子ども、保育者、保護者、地域の人、時には政治家も交えて協議するそうです。子どもを「未熟な存在」ではなく「有能な市民」として捉えている姿勢が伺えました。機会があればイタリアのレッジョ・エミリア市へ一度、行ってみたいものです。

幼児教育センターとは、市内の就学前施設において、幼児教育のより一層の質の向上を図る施設です。